

震災！水災！
その時、どうなる？
どうする？！どう備える？



あいち防災キャラクター
防災ナマズン



防災講演会あいち 第2部
日時：2023年12月3日（日）
場所：鯨城ホール
（伏見ライフプラザ）

愛知県 防災安全局 危機管理・国民保護 班長 青山幸久

！
？
！
！
？
！

近年の災害を振り返る

全国で散発する大災害 (震災)

阪神・淡路大震災
1995.1.17.AM5:46

再び日本列島は活動期へ！

30年以内
発生確率
8%



直下型地震・最大震度7

	阪神・淡路大震災	平成28年熊本地震	北海道胆振東部地震
発生日	1995年1月17日(火)	2016年4月16日(土)	2018年9月6日(木)
発生時刻	午前5時46分	午前1時25分	午前3時7分
時速時間	約15秒	約20秒	約10秒
最大震度	震度7 (神戸市ほか3市3町)	震度7 (益城町・西原村)	震度7 (厚真町)
地震規模	Mj7.3/Mw6.9	Mj7.3/Mw7.0	Mj6.7/Mw6.6
震源の深さ	16km	12km	37km
最大加速度	818ガル	1,580ガル	1,796ガル
死者数	6,434人(直接死)	50人(直接死)	41人(直接死)
行方不明者数	3人	0人	0人
重傷者数	10,683人	957人	17人
軽傷者数	33,109人	1,624人	674人
全壊棟数	104,906棟 (他に全焼7,036棟)	8,298棟 (他に全焼0棟)	394棟 (他に全焼0棟)
半壊棟数	274,182棟 (他に半焼96棟)	31,249棟 (他に半壊0棟)	1,016棟 (他に半焼0棟)
一人当たりの被害額	390,506円 (他に部分焼373棟)	44,416円 (他に部分焼0棟)	7,555円 (他に部分焼0棟)

人の数と人が住む街の脆弱性の差

全国で頻発する災害 (水災・土砂災)

広島土砂災害
2014.8.20



東日本台風
(台風第19号)
2019.10.12~10.13

令和最初の超広域水害
(長野県含む東日本地域)

膨大な災害廃棄物

台風等の水害は翌日から市民がゴミの片付けを始め…

- ・台風一過の休日は絶好の片付け日和☀️ (震災の場合は数日遅れる傾向)
- ・ゴミ捨てるのルールがないと無秩序に捨てられ…

※「混載ゴミ (分別のできていないゴミ)」は全国でも扱っている業者が少ない

⇒三重県の業者にコンテナに入れて海上輸送 (助成はあるが費用が…)

困りもうした…

栃木市マスコット
とち介©栃木市



道路啓開や救出救助のために自衛隊により集約された混載災害廃棄物



ルールが徹底されておらず市民が無秩序に捨てた混載ゴミ

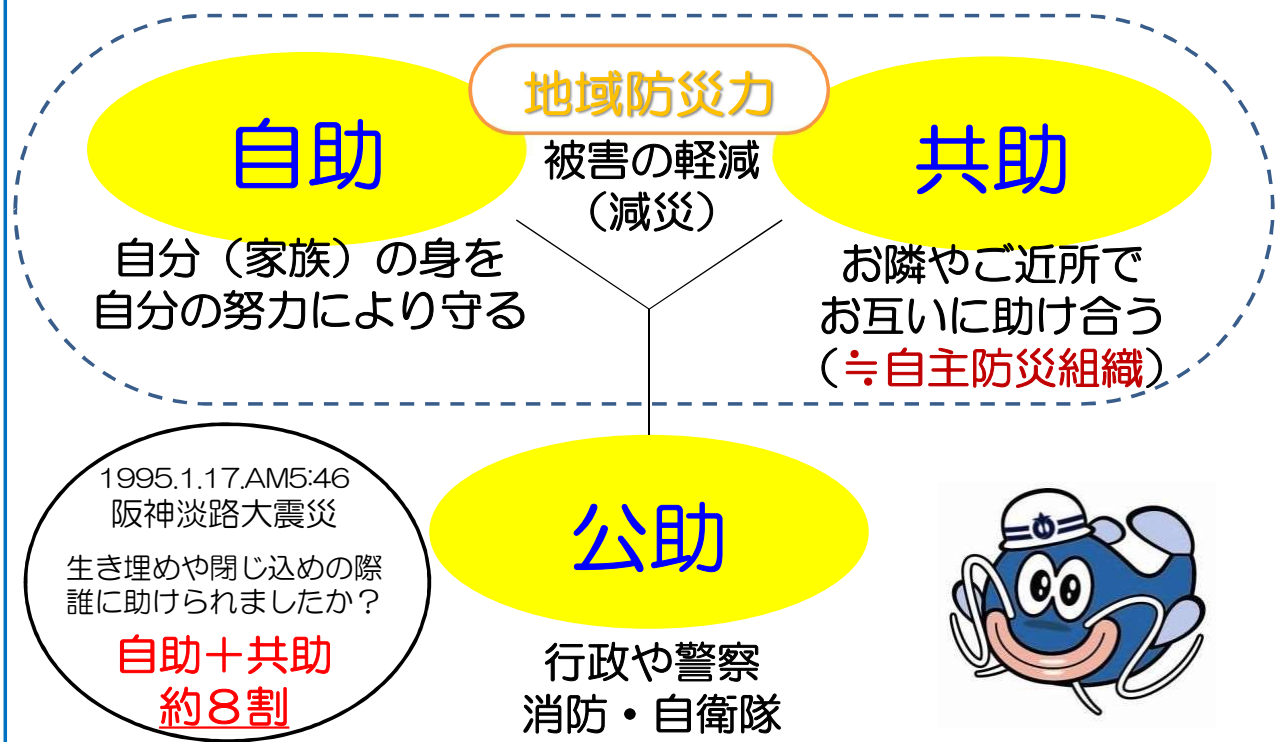


きちんと分別された災害ゴミ仮置き場



！
§
！
災いを防ぐを考える
！
§
！

いつ起こるか分からない災害から
どのように命を守りますか？



？
？
？
？
？
？
？

共助の自主防災組織って何

「自主防災組織」とは！

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という、自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織であり、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織のこと。

地域において「共助」の中核をなす組織であることから、自治会等の地域で生活環境を共有している住民等により、地域の自主的な活動として結成・運営されることが望ましい。

全国の自主防災組織の内、自治会単位… 94.5%
小学校区単位… 1.9%

災害時の役割分担などを事前に決めて、出来る範囲で助け合う体制を作りましょう！！



!
?
!
?
!

熊本地震で活きた 平時の取組

熊本県地域防災活動支援プログラム+自主防災活動事例集

熊本県地域防災活動支援プログラムと自主防災活動事例集を
平成30年3月に発行しWeb上に掲載

http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_23257.html

地域防災 活動支援プログラム

- ① 情報収集・伝達
- ② 安否確認・救出救護
- ③ 避難誘導・避難
- ④ 避難所開設・運営
- ⑤ 地区防災計画



熊本県

©2018 熊本県くまモン

自主防災活動事例集 (熊本地震対応編)



熊本県



熊本地震で生きた平時の取組み

大切畑自主防災会（西原村）

全国に知られた「西原村の奇跡」は「偶然」ではない！



地区内34棟の内30棟（88%）が全壊（半壊以上は94%）

4月16日の深夜に速やかに安否確認を実施
9人が住家の下敷きになっていることが判明

消防団員と地域の方々に3時間以内に救出
死者ゼロ

死者ゼロ≠被害が少ない

被害を出さなかった西原村

お祭りなど地域の行事を通じた顔の見える関係
2年に1回実施している発災対応型の防災訓練

復興まちづくり計画策定一番乗り

救出救助訓練の様子



大切畑地区の救出箇所



黒髪第4町内自主防災クラブ（熊本市）

日頃の活動が災害時の信頼と安全に
～オレンジビブスが住民に与えた安心感～

熊本地震前からの取組み

- 平成12年に発足。町内には熊本大学があり、避難所となる
桜山中学校とは食育活動や防災塾を毎年開催
- 東日本大震災後は、震災の教訓から、段ボールの間仕切りを
自主防災クラブで購入し、毎年中学生と設置訓練を実施

全国屈指の自主防災組織



顔が見える関係を作る日頃の取組み

- 毎月2回、オレンジビブスを着て、土曜日の朝に資源回収。
- 資源回収で得た資金は活動費へ → 軽自動車2台、防災倉庫4基を保有（全国トップクラス）
- ◎各戸訪問により高齢世帯や独居世帯の安否確認を兼ねていた



毎月2回の資源回収
オレンジビブスを常に着用



資源回収の資金で購入
したパトロールカー

熊本地震時の対応

- 日頃からのオレンジビブスへの信頼感から住民が安心感を得た
- 避難者の増加に伴う避難所内のレイアウト変更時もトラブル等なく住民が協力して移行

舞原自主防災会（熊本市南区）

平時のイベント（どんどや）を復活 そして迎えた熊本地震…

地域の絆作り

平成24年、元自衛官の住人が「防災委員」に就任し、自治会活動に参加。

平成25年に、防災委員が地域の繋がりが薄いと感じ、「どんどや」を復活させ、以後は毎年実施していた。

また、この他にお花見や夏祭りなども企画し、防災訓練も平成26年に開始し、以後継続していた。



©2016舞原自主防災会

防災住宅地図を活用した迅速な安否確認

防災委員手作りの防災住宅地図を活用し、班長に安否確認を指示し、迅速に安否状況を把握



手作りの防災住宅地図



4/16 本震後の公民館前



4/17 防災本部自治会班長会議

向山校区まちづくり委員会（熊本市中央区）

「でくるしこ」でつなぐ防災まちづくり

震災から3日間は自分たちで乗り切る！と

決意して臨んだ避難所運営

“でくるしこでよかけん”を合言葉にした日頃の活動やイベントが「いざというときの助け合いのチカラに！」

委員会が主催する夏まつりや清掃活動、体育祭や文化祭、防犯パトロールなど「まちづくり」が災害時に「チカラ」になった。

熊本地震を踏まえワークショップを経て策定した地区防災計画

ワークショップを開催し、住民の経験を基に意見をまとめて地区防災計画を策定！
避難者名簿の作成や運営スケジュール、炊き出しルールなどを作成。



夏まつりの様子



ワークショップの様子

??!
避難所＝安全？
!??

そもそも避難所は「安全」か？

～ 平成28年熊本地震の実話から～

益城町立総合体育館のメインアリーナは、前震後の目視確認で「危険」と判断

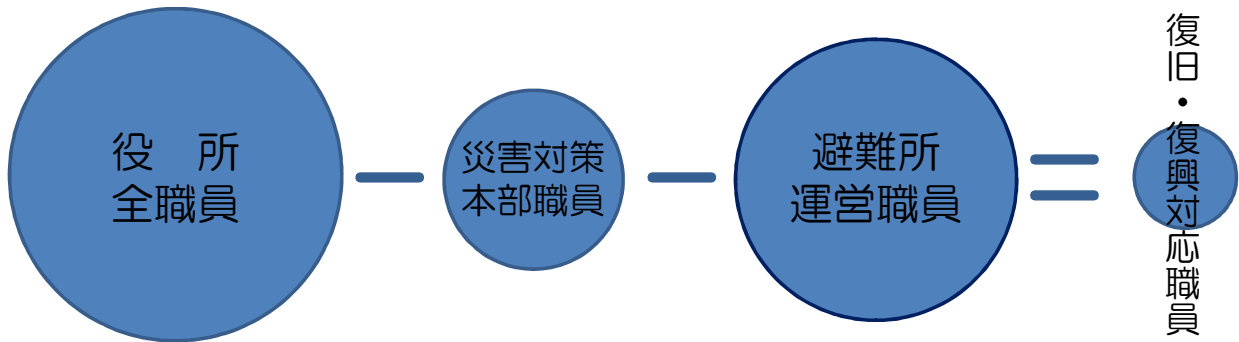
町長は、避難所として使用しないことを決定（多くの住民から苦情）

仮に開放していた場合、甚大な人的被害が生じていた可能性が極めて高い

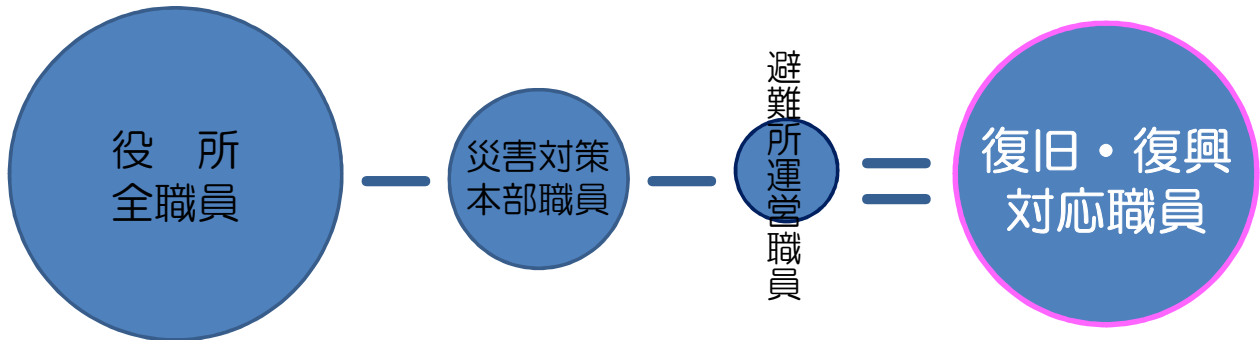
（写真提供：熊本県益城町）



役所職員の負担軽減から



復旧・復興の加速



防災力向上に近道なし

